

巨大な魚群を表現した壁面アート（スペース提供）



様子などが流れる動画やユニホーム、グッズを制作し、開業に合わせてプロモーションイベントを企画した。受賞報告であいさつしたJF兵庫漁連の突々淳専務理事は「壁面は下に行くほど濃くなる青いグラデーションで海中を表現した。食べ物扱う店の内装に青系は少ないが、海を感じてもらおう場所、港とつながる場所をイメージすると、青は欠かせなかった。より多くの人に来てもらい、新たな発見をしてもらいたい」と語った。

でもらうこと。食べることを通じて人とのつながりを作り、コミュニケーションの場を創出するお店をイメージした。店舗壁面にはヒラメやアカガレイ、シズなど加古川近海で漁獲できる68種類を描いた」とデザインのポイントを説明した。店舗は第41回ディスプレイ産業賞でディスプレイ産業優秀賞（経済産業省商務・サービス審議官賞）を受賞したほか、「第56回日本サインデザイン賞」（日本サインデザイン協会）の銅賞と諏訪光洋賞を受賞。「日本空間デザイン賞2022」（日本商環境デザイン協会、日本空間デザイン協会）にも入選した。

漁業協同組合連合会（JF兵庫漁連）の直営店舗「漁連の魚屋」（兵庫県加古川市）が、ディスプレイ産業賞（日本ディスプレイ業団体連合会）など複数のデザイン賞を受賞した。9日に関係者らが現地で受賞報告会を開いた。

店舗は、2021年にアリオ加古川のグリーンマート内で開業した。店舗デザインのテーマは「魚が大好きになる場所」。調理場をガラス張りにして魚をさばく様子を外から見られるようにしたほか、巨大な魚群の壁面アートで店内を包む演出を図った。さらに漁の

複数デザイン賞受賞

スペース兵庫の店舗で報告会

商業施設などの空間設計 都中央区、佐々木靖浩社長
を手掛けるスペース（東京）がプロデュースした兵庫県の

